

ふくしの視点から避難者を支える 山形DWATとして石川県にチーム派遣

DWAT(ディーワット)とは

DWATとは、「災害派遣福祉チーム」のことで、「Disaster Welfare Assistance Team」の略です。

災害が起きたときに高齢者、障がいのある方、子どもなど要配慮者のニーズを把握し、ケアや支援を行うチームのことです。

山形県としての取り組み

本県では、行政及び職能団体等からなる山形県災害福祉支援ネットワーク協議会を設置し、広域的な福祉支援ネットワークの構築を目指して、災害派遣福祉チーム員養成研修の開催や日頃からの情報共有に取り組んでいます。

現在、山形DWATのチーム員登録者数は67名(令和6年4月1

域からの避難者が多く、自宅に戻れるかという不安を抱えている方や、家族と離れて避難している方も多くいました。

日現在)。県内の福祉施設で就労する介護員や生活相談員、栄養士など様々な業種の職員に登録していただき、大規模災害時の出勤要請に備えているという状況です。

能登半島地震への支援のため、令和6年3月12日から16日までの5日間にわたり、高齢分野・障がい分野から各1名ずつ、チーム員2名が派遣されました。山形DWATとしては初めての派遣であり、今後の取り組みの指標となる活動であったといえます。

実際に現地で活動した チーム員に聞きました

特別養護老人ホーム蔵王やすらぎの里
介護員 加藤 成生さん

(1) 現地での業務は？

金沢市内の1・5次避難所に派遣されました。市内のライフラインは問題なかったのですが、避難所に行ってみると被害の大きい地

配属されたのは、排泄や食事の介助が必要ない比較的自立度の高い方が居住しているエリアでした。避難者は60

70代の方が多く、仮設住宅や二次避難所に移る意向なのか、また自宅に戻りたいのかといった今後の生活に関する見通しを直接聞き取り、次の段階に進む手助けをすることが主な業務でした。

(2) 養成研修と現場での違いは？

研修でも様々な状況を想定したシミュレーションを行いました。現場ではDMAT(※1)やJRA T、(※2)介護福祉士会やケアマネ協会の方や現地の支援者との連携が広く求められるなど、専門的な他業種連携が重要となることを特に実感しました。

また、コミュニケーションの距離の取り方には難しさを感じる場面もありました。養成研修では「利



「経験が自分の成長につながった」と話す加藤さん

用者への度重なる聞き込みは控えること」と教わったので、同じことを聞く事がないよう、聞き取りをしたら利用者のファイルに記入し、毎日更新してチーム員同士で情報を共有しました。

(3) やりがいを感じた瞬間は？

対応が避難者の安心につながり、感謝の言葉を頂いたときに、この活動をしてよかったと感じました。最初こそ不安はありましたが、上司から「自分自身の成長につながる貴重な経験になるから。現地に向いての被災地支援活動からの学びを大切にしてほしい」と背中を押していただきました。チーム員の方や職場の方に恵まれたと感じています。本当に貴重な経験となりました。

※1 災害派遣医療チームのこと。急性期から活動できる機動性をもつ訓練を受けたチームです。
※2 日本災害リハビリテーション支援協会のこと。リハビリテーションの観点から被災者を支援します。